

下川町森林整備計画の概要

全体の目標と基本的な作業目標を立てます

1 伐採、造林、間伐、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

●地域の現状を把握し、課題を明示します

- ・地域の森林 56,977ha 蓄積559万 m^3
内FSC[®]認証林 (FSC[®]C015134) 7,500ha
- 国有林 48,597ha 蓄積425万 m^3
年間成長量 74,000 m^3
- 町有林 4,405ha 蓄積70万 m^3
年間成長量 15,000 m^3
- 私有林 3,975ha 蓄積65万 m^3
年間成長量 16,000 m^3
- ・地域の林業従事者数 H19 48人 → H25 36人
- ・地域の林産業従業員数 H19 135人 → H25 146人
- ・町内林産関係 9工場 82,000 m^3 原木消費 (内町内産21,000 m^3)

＜課題＞・・・P.1

- ・森林所有者の高齢化、相続の問題、林業経営のあり方検討
(所有者のほとんどが50歳以上。半数が5ha以下の小規模所有者)
- ・地域の森林整備ビジョンと共有不足
(人工林管理のあり方、長期的な木材供給体制のビジョンづくり)
- ・担い手育成とその長期育成目標
- ・輸入材との競争力強化 (面的な拡大、環境配慮型の生産システム管理と品質向上) など

●森林に求められる地域ニーズ、民有林のあり方を明示します

- 持続的な木材供給体制確立 (需要先とのマッチング、山元→川下の関係強化)
- FSC[®]認証の拡大継続 (山主への価格反映、販路拡大)
- 水資源確保など公益性の確保
- 広葉樹林の保全など生物多様性の確保
- 適正な整備により山地災害防止
- 継続的な森林整備、路網整備による雇用の場の確保 (人づくりの体制整備)
- 山づくり全般に対する考え方や森林文化の次世代への伝承 など

●新たな5機能別ゾーニングの解説とゾーンごとの整備基本方針を明示します↓

新たなゾーニングを実施し、基本方針を明示

＜旧3ゾーン＞

- ・水土保全林・・・上名寄川向、珊瑚12線以北、モサンルなど
- ・森と人との共生林・・・溪和森林公園周辺、21世紀の森一部など
- ・資源循環林・・・その他大部分の森林

＜新5ゾーン＞

- ・水源涵養林・・・水源の集水域（上名寄川向、珊瑚12線以北、モサンルなど）
- ・山地災害防止林・・・山地災害保安林など（上名寄川向一部の森林）
- ・生活環境保全林・・・防風林、海岸林等 指定なし
- ・保健・文化機能等維持林・・・森林公園など（矢文、溪和森林公園、五味温泉周辺）
- ・木材等生産林・・・木の成長が良好、林道が充実、地形が良い森林など
（大部分の森林を指定）

2 森林整備の方法に関する事項

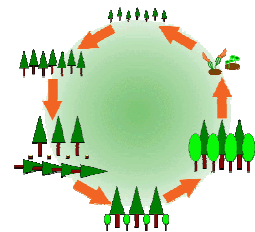
森林整備の具体的な方法を記載

●地域の皆伐・択伐の具体的な方法を明示します→1箇所10haを超えない
※（1箇所当たりの皆伐面積上限を決めることが重要となっています）・・・P.7

- 主伐箇所の分散を図り、1箇所は原則10ha以下とする
- 択伐時は材積伐採率が30%以下とする

●地域の標準的な樹種ごとの伐採時期を決めます（標準伐期齢という・・・P.8
アカエゾ60年 トドマツ50年、カラマツ30年 広葉樹80年など
これ以前では皆伐しない基準を明示

- その他木を伐る際の環境配慮について記載します
※水質汚濁に注意や大雨時の伐採作業に注意
※野生動物に対する配慮。労働安全への配慮
※作業システムの見直し改善 など



●造林をする際の具体的な方法を明示します→植栽本数、時期、樹種の適正など
例＜中庸仕立て ha当たり植栽本数＞・・・P.10

- カラマツ 2,000本 主伐時の残存本数設定 400本/ha
- トドマツ 2,000本 主伐時の残存本数設定 500本/ha
- アカエゾ 2,000本 主伐時の残存本数設定 400本/ha

※植栽による確実な資源維持を目指し、植栽を義務付ける森林を指定します

※主伐後、2年以内の植栽を義務付けします

※水資源保全ゾーンや木材等生産林などを植栽指定対象とします

●自然に植生を回復させる際の目安を記載します

※伐採地のどのくらいの割合が自然林に戻ったら植生が回復したと判断するか

●間伐と保育（下刈、除伐、ツルきりなど）の基本的方法を明示します・・・P.15

※間伐・・・樹種ごとにいつごろ、何回実施などを記載

●5ゾーンごとの森林管理作業の方法を既定・・・P.16

＜例えば＞

※水源涵養ゾーンなら・・・伐採箇所の分散をします

※生活環境保全ゾーンなら・・・択伐による複層林にします

※木材生産機能の維持増進を図るべきエリアはどこか など

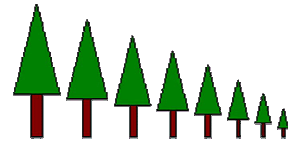
●樹種ごとの仕立て方法（主伐時に ha 当たり何本を目標とするか）

●樹種ごとの主伐林齢、生産目標など・・・P.17

➤ カラマツ 40年生 34cm

➤ トドマツ 50年生 32cm

➤ アカエゾ 80年生 36cm



●北海道による水資源保全のための上乘せゾーニングについて

➤ 水源涵養林のうち、水道取水施設等の集水域について指定

➤ 町として水質保全上特に配慮が求められる森林について指定

➤ 北海道水資源の保全に関する条例第17条に規定に基づく指定

●林道の開設についての基本的な考え方。現状と目標数値を記載

（路線数や延長、路網密度の水準など）・・・P.19

・H26民有林内におけるha当たりの林内路網密度

種別	延長 (m)	密度 (m)
町道	207,852	24.75
林道	27,346	3.26
作業路	120,292	14.33
合計	355,490	42.34

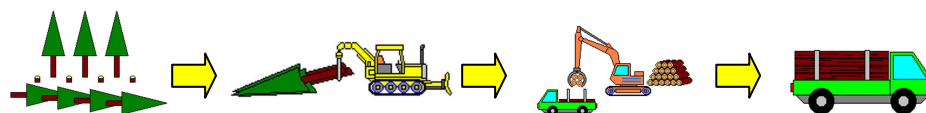
作業システムに合わせた路網規格の選定と開設を基本とした組み合わせ

- ・森林管理道（林道） 25トン運材車の走行を想定
- ・林業専用道（作業路） 25トン運材車、林業機械の走行
- ・森林作業道（集材路） 林業機械の走行

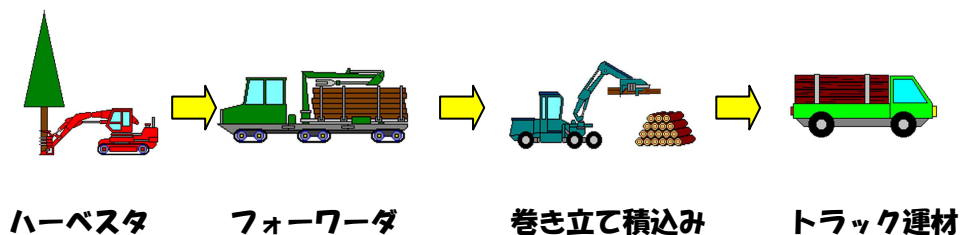
※どのくらいの傾斜地で道路がこれくらいあれば、こんな作業システムが使えるという目安を記載

★従来型の作業システム

チェーンソー伐採 フル集材 土場玉切り積込み トラック運材



↓ 15度の傾斜で路網密度が100m/haならハーベスターが有効



ハーベスタ フォーワーダ 巻き立て積込み トラック運材

●森林経営規模の拡大についての方針

※小規模所有者を集約し共同化→木材の安定供給につなげる

●林地の流動化・・・森林情報の提供、必要な情報の提供など

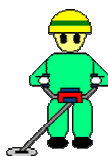
※林地流動化斡旋事業の充実と体制強化

●森林施業の共同化を推進するための方法について記載

→地域協議会の設置や普及啓発活動について

●林業従事者の人材育成や確保について・・・研修制度や支援体制など

- ・町単独研修補助事業
- ・緑の研修生



- ・国の研修制度への参加

●機械導入の促進に関して方針を明示 今後どんな機械を入れていくか・・・P.24

区 分		現 状 (参 考)	将 来
伐 倒		チェーンソー ハーベスタ	チェーンソー ハーベスタ 車両系ハーベスタ
造 材		チェーンソー ハーベスタ	チェーンソー ハーベスタ 車両系ハーベスタ
集 材		スキッダ	スキッダ フォワーダ
運材		グラップル付きトラック	グラップル付きトラック
造 林 保育等	地拵	バックホウ レーキドーザ ブラッシュカッター	バックホウ レーキドーザ グラップルレーキ
	植栽	人力・クワ	人力・ポット苗（プラントチューブ）
	枝打	人力	人力

●林産物の利用の促進のために必要な施設は何か

※施設整備の方向性を記載します

- ・町内事業体の林業機械保有状況
- ・木工場の運搬車両保有状況

森林の保
護につい
て記載

3 森林病虫害の駆除や予防 その他森林の保護について

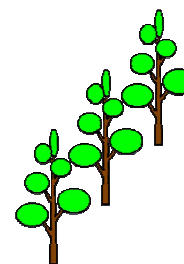
●森林病虫害と鳥獣害の被害対策について基本的方法を明示

※カラマツハラアカハバチやマイマイガなど

※エゾシカ。野ネズミ被害の防除を実施

●林野火災の予防方針を明記します

※予防時期や施設などについて



4 森林の保健機能増進について・・・P.27

●場所の指定、森林整備作業方法の指定、施設についての記載など

例えば・・・矢文千古の森、深和森林公園、五味温泉周辺の体験の森林を指定し、景観の維持の為に皆伐を制限する

5 その他森林の整備のために必要な事柄・・・P.28

●森林経営計画の作成に関する記載

※どのような事項に注意し計画を作成していくか方針を記載

●森林の整備を通じた地域振興に関する記載

- 森林資源を活用した地元商品開発、他地域への販路拡大（O&Dウッド）
- カーボンオフセット（J-VER制度取組み）
- 木質バイオマス活用の推進（ボイラー整備、林地残材活用、J-VER制度）
- 地域材住宅の販路拡大（下川ECOな家づくり研究会）
- FSC®認証製品販売（割り箸 FSC®C011467、住宅部材 FSC®C001830、FSC®C013394、FSC®C023247、FSC®C121957）
- 森林療法やツーリズム展開など（トドマツ精油 FSC®C010864、FSC®認証、地域間交流）

●住民参加の状況について記載・・・P.29

- 町民植樹祭の開催（毎年5月に実施、国有林と連携）
- 森林環境教育など（年間24回実施）
- チェーンソーアート大会を通じた森林文化創造

●地域の特色ある取り組み概要を記載

※現行計画書では

- 地域の国有林取得の経緯
- 循環型林業経営
- 町有林経営の目的を記載

